



中東情勢の混迷とスイスフラン相場

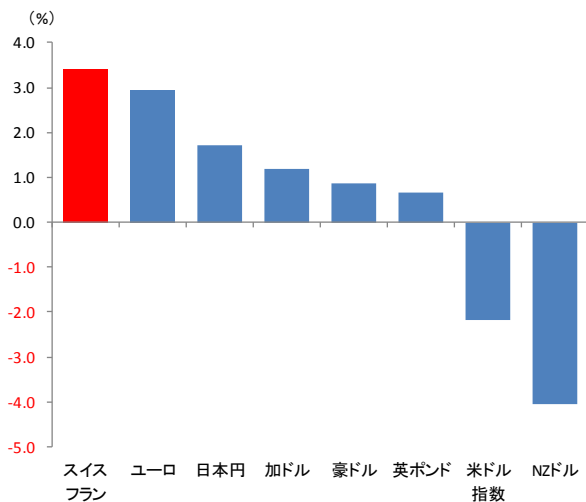
スイスフランの快進撃が続く

早春の外国為替市場でスイスフランの快進撃が目立っている。2月25日の東京市場で一時1ドル＝0.9233フランと変動相場移行後の最高値を記録したスイスフランは、その後いったん小緩んだものの、3月2日のニューヨーク市場では再び同0.9200フランと、2週連続で史上最高値を更新した。今週に入ってからはずがに高値警戒感も出て、スイスフランの上値は重たくなっているが、依然として1ドル＝0.92フラン台での推移が続いており、歴史的な高値圏で取引されている。

リスク回避マネーの疎開先としての選好が強まる

最近のスイスフランの高騰は、市場が中東情勢の混迷を強く意識し始めた2月の中旬頃から始まっている。中東情勢への懸念を反映して原油価格が急騰し始めた2月16日以降の主要通貨の騰落率を比べてみると、スイスフランが世界最強通貨の座に君臨していることが分かる。いわゆる「リスク回避マネー」の受け皿としてスイスフランへの選好が強まった結果だとみられるが、中

主要国通貨の騰落率(2011/2/16～3/7)



(出所)ブルームバーグ、各種資料

東有事を背景にスイスフランへの買い興味が刺激されるのは一体何故なのだろうか。以下3つの理由を指摘しておくたい。

第一に、スイスは日本と同じ經常収支の恒常的な黒字国であり、対外累積債権国である。一般に、市場参加者のリスク許容度が萎縮する局面では、累積經常赤字を抱え込んだ対外債務国の通貨よりも債権国の通貨の方が安全資産だと見做され易い。

第二に、スイスは軍事的には永世中立国を標榜している。このため、スイスフランは地政学的には国際紛争から最も疎遠な国の通貨であり、紛争地域その他からのリスク回避マネーの一時的な疎開先として選好され易いとみられている。

第三に、スイスには「世界の大富豪の匿名口座」がある堅牢な金融立国というイメージがある。表面化しない匿名資金の流れを把握するのは困難だが、中東情勢の混迷が深まる中、「長期独裁政権下で蓄積されたオイル・マネーやアングラ・マネーが大挙してスイスに集まってくる」との思惑が台頭し易くなっている。

更なるスイスフラン高の可能性もあるが...

現在、市場の関心を集めているリビア情勢は、カダフィ政権を支持する勢力と民主化を求める反政府勢力の内戦状態に発展しており、今後の状況を正確に読み切るのは非常に難しい状態になっている。チュニジア発、エジプト経由でリビア等の国々に飛び火してきたアラブ民主化運動のこれまでの経緯をみるにつけ、今後サウジアラビアやイランなど、その他の中東産油国にも反政府運動の波が拡散するリスクも否定できない。原油価格の高騰が今後も続いて世界景気の回復期待が後退するような事態になれば、為替市場のリスク許容度が更に圧縮され、歴史的な高値圏でのスイスフラン選

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



好が一段と強まる可能性もあるだろう。現在、スイスフランの対ドル相場は過去未体験の高値圏に買い進まれているため、具体的な上値の目処を特定するのは難しいが、「スイス強気派」の間では心理的節目の1ドル＝0.90フランを目指すとの見方も熾り始めている。

中東懸念が和らいだ場合の反動にも要注意

ただし、「万人が納得する分かり易い値上がり圧力」に晒されている通貨ほど、環境が変化した場合の反動も大きくなる可能性がある点には注意が必要だ。最近のスイスフランの高騰には相応の理由があるものの、多くの市場参加者が肯定する「買われる理由」が沢山ある通貨ほど、投機的な買いの対象にもなり易い。為替市場参加者の間では「値段の高さ」は立派な「売る理由」の一つにもなるため、何らかの環境変化が原因で売られ始めた場合には、少なくとも短期的にはかなりの値崩れが生じる可能性もある。

例えば、もしもリビアの内乱が両陣営の妥協成立、あるいはどちらか片方の勝利という形でひとまず収束し、石油関連施設が保全された状態で他国への波及懸念も徐々に和らいでいくような場合、投機的なスイスフラン買い持ち高が巻き戻されるほか、一時的な疎開先としてスイスフランに滞在していたリスク回避資金の里帰り期待などが促され、歴史的な高値圏からの調整圧力が一気に顕在化する可能性もあるだろう。

スイスフラン相場の観察を続ける意義

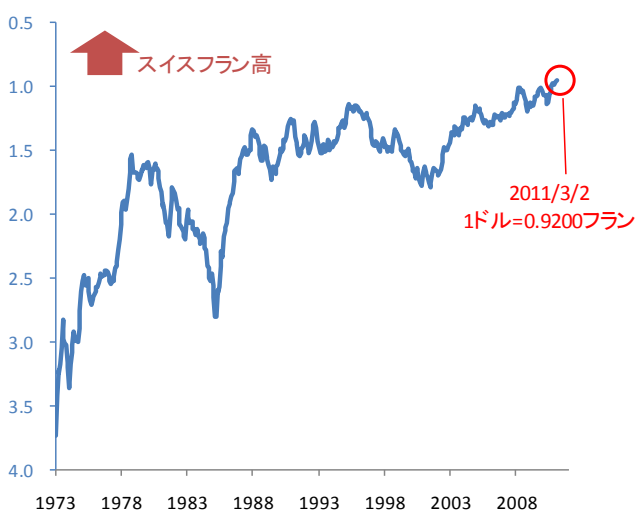
総じて、当面のスイスフラン相場は今後の中東情勢次第で上下どちらの方向にも大きく動く可能性がある。「中東情勢の行方」を正確に読み切るのはほぼ不可能であるため、足下のドル/スイスフラン相場においては、「平時の分析手法」による短期売買戦略の策定がほとんど無意味になっていると思われる。テクニカル的にみてどのようなチャート・フェイスになっていたとしても、今後も日時未定で飛び込んでくる「中東情勢に関する続

報」の内容次第では、想定とは全く逆向きの動きが誘発される可能性があるからだ。現在のドル/スイスフラン相場を「万人にとって予測不可能なボラティリティの供給源を持つが故に、リスク見合いのリターン獲得のチャンスを提供してくれている」と前向きに評価することも可能だが、個人的な好みを言うならば、敢えて「運だめし」のようなポジションを持ってドル/スイスで勝負を仕掛けなくても良いのではないかと考えている。

ただし、現在我々が目の当たりにしている「アラブ民主化運動の広がり」という現象は、世界史的にみておそらく稀有の局面であり、それをライブで目撃できるチャンスは同時代人だけに与えられた特権だと言える。いわゆる「千載一遇」の局面に接し、スイスフランという特殊な通貨が外国為替市場でどのような振る舞いを見せるのか、興味をもって観察し続けることで様々な示唆が実感として得られるのではなからうか。稀有の経験の蓄積が、今後の為替市場をみる際に必要な洞察力の鍛錬になるとことを期待しつつ、当面のスイスフラン相場の観察活動を続けたいと思っている。

ドル/スイスフラン相場の推移

(逆目盛、スイスフラン)



(注) 最安値は外為どっとコム"FX Vision"より
ドル/スイスフラン相場は月間平均値
(出所)ブルームバーグ、外為どっとコム"FX Vision"

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com